

(2) 冬型感染症のシーズン別報告状況

令和元年シーズン（令和元年6月下旬～令和2年6月下旬）の特徴。

インフルエンザは、昨シーズンより早く11月下旬から患者報告数が増加した。しかし、12月下旬には昨シーズンより低いピークとなり、その後早めに減少した。

感染性胃腸炎は、11月中旬から患者報告数が増加し、2月上旬に昨年よりやや低いピークとなった。その後減少し、3月中旬以降は例年より低くなった。

	東部	中部	西部	県計
平成26年シーズン	2,992	2,560	2,956	8,508
平成27年シーズン	3,472	1,635	2,743	7,850
平成28年シーズン	2,376	1,735	2,165	6,276
平成29年シーズン	4,085	3,500	4,508	12,093
平成30年シーズン	2,523	2,038	3,106	7,667
令和元年シーズン	1,929	1,356	1,640	4,925
6年シーズン平均	2,896	2,137	2,853	7,887

	東部	中部	西部	県計
平成26年シーズン	2,478	1,808	1,153	5,439
平成27年シーズン	3,253	1,652	1,672	6,577
平成28年シーズン	2,892	1,678	1,750	6,320
平成29年シーズン	2,725	1,677	1,771	6,173
平成30年シーズン	2,482	1,769	1,974	6,225
令和元年シーズン	1,734	1,122	1,261	4,117
6年シーズン平均	2,594	1,618	1,597	5,809

※当年6月下旬～翌年6月下旬

